学籍番号

氏名

[] 内から適切な語を選び、その接続構造を図示せよ。

① 分裂病者で幻覚といえば、眼前に見える幻視は少なく、大部分を占めるのは幻聴であり、(a)[それゆえ/しかも] ② 聞こえてくるのはメロディーや雑音のたぐいではなく、人間の声であり言葉である。(b)[したがって/そして]、③ こうした幻覚空間を舞台として進行する分裂病的世界は、すぐれて言語的描写に適しているようにみえる。(c)[それゆえ/たとえば]、④ みずからも分裂病的心性を濃厚にもっていたカフカの作品は「孤独の三部作」をはじめとしてその好例となるものが多い。(d)[つまり/それゆえ]、⑤ そこではきわめて硬質な文体ながら、不明瞭なもの、無限定なもの、不安定なものという分裂病的世界が漂い、くまなく浸透しているのである。

記号

付加: $A + B$

解説: $A = B$

論証: $A \rightarrow B$

例示: $A - \text{例 } B$

解答例と解説

(a) しかも: ① + ②

これは難しくないだろう。② はただ単に① で述べたことに情報を付け加えているだけである。

(b) したがって: ① + ② → ③

これは① ~ ③ を読むだけではいまひとつ判然としないかもしれない。しかし、④⑤ と読み進めると、この文章は分裂病者の幻覚については語っておらず、分裂病的世界の言語的描写について述べていることが分かる。従って、③ が①② で述べられている分裂病者の幻覚について情報を付加していると捉えるよりも、①② は③ で述べている「分裂病的世界が言語的描写に適している」ことの原因を述べていると考えるのが妥当である。

(c) たとえば: ③ - 例(④ ~ ⑤)

これも特に問題は無いだろう。

(d) つまり: ④ = ⑤

⑤ はカフカの作品がどのように「好例」になっているかを解説している。

③ で述べられている「分裂病的世界は言語的描写に適している」というのがこの文章全体としての主張である。